



(参考仮訳)

プレスリリース No. 10/09

国際通貨基金 (IMF)

即時解禁

2010年1月18日

ドミニク・ストロスカーク IMF 専務理事の訪日に関する声明

ドミニク・ストロスカーク国際通貨基金 (IMF) 専務理事は本日東京において以下の声明を発表した。

訪日できたことを嬉しく思う。今回の日本滞在では、鳩山首相、菅副首相、白川日銀総裁と有意義な意見交換を行った。政権交代後初めての日本訪問ということで、日本経済の持続的な回復と中期的な経済成長に対する新政権の政策について理解を深めることができた。また、東京大学を訪問する機会もあり、自由な雰囲気の中で学生や教授陣と議論を交えた。

今回の意見交換では現在進行中のグローバルな経済回復に話題の的を絞った。これまでのところ、積極的かつ時宜を得た政府の支援策により世界経済のさらなる悪化は防がれて来た。日本経済も、他の先進国と同様、政府が繰り出す矢継ぎ早の政策のおかげで最悪期を脱しつつある。

しかし、先進国においては、景気回復の動きはいまだ緩慢で、民間部門の需要や労働市場における雇用回復の動きは弱含みのままであり、日本も例外ではない。景気回復の動きを確たるものにするためには、将来を見据え、支援を継続していく意志を政府がはっきり示す必要がある。

日本政府は、新成長戦略の基本方針を最近示したばかりであるが、これは時宜を得たものであり、世界経済の不均衡是正にも大きく貢献することが期待される。特に、新たな需要の創造とアジアの域内経済統合の促進に重きが置かれている点を歓迎する。後者は、世界経済の成長の要であるアジア新興国における資本市場の発達を日本が促すことにもつながり、これは今年7月にソウルで開かれる IMF-アジア会議のメインテーマの一つにもなっている。我々は、IMF-アジア会議でも日本が積極的な役割を果たし、域内から集まる各国首脳に経済発展における一つの模範を示すとともに、世界経済発展のためにアジア各国で共有できるビジョンの創生に尽くしてくれることを確信している。

最後に、IMF が国際システムの中で中核的な役割を担うにあたり、日本が惜しみない支援を継続してきたことへ感謝の意を表したい。今後も、日本がリーダーシップを発揮し、世界経済回復のための政策立案及び国際金融システムの強化に携わっていくことを期待している。